

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300139		
法人名	社会福祉法人 久住会		
事業所名	グループホーム 敬寿		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野1751番地 (電話) 09496-2-7688		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年3月28日	評価確定日	平成19年5月21日

【情報提供票より】 (平成19年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 333 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年3月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(内科) 佐野医院 (心療内科) 丸野クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

軽費老人ホーム(A型)やケアハウスが併設されている。そのため地域交流ホールや茶室、理容室や医務室が整えられ、医療連携もとれている。法人全体で約80名の利用者が同じ敷地内に生活しているため利用者同士の交流が盛んにあり、また長い歴史があるため3世代交流のできるボランティアが入る等、地域との交流も盛んである。利用者はお互いに支え合いながら、明るく毎日を過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	研修の確立や介護の質の向上を目指し、前回の外部評価結果を基に、活動日誌の改善や規程・契約書等の見直し、介護計画の家族の同意の徹底等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を基に全職員で自己評価を作成し、それぞれの意見を話し合いながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を実施している。介護サービスや外部評価の内容等の説明をし、また今抱えている問題点を相談することもあり、委員から意見等をもらい、運営や介護の質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情箱や家族アンケート等は行っていないが、家族会があり、家族の意見を吸い上げる仕組みがある。この家族会には職員は参加せず介護相談員が出席しその内容をホーム側に伝えている。ホームは報告を聞いて記録を作り、問題点の解決に当たっている。また家族の訪問時には、入居者の様子や必要な連絡をとるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人全体として地域に貢献し様々な行事を呼びかけ、軽費老人ホーム開設当時からの地域(3世代)ボランティアの方々と交流がある。今後は、事業所独自の関わりも取り組んでほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通の理念とは別に事業所独自の運営理念を持っている。事業所の基本的な目的を分かりやすい言葉で表わし、家族や利用者、職員に目に付くところに掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、カンファレンスや介護計画の見直しなど介護の基本が問われる場面で「理念」の大切さを話している。そのため職員には浸透しており、日々の介護に活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してはいないが、母体法人の20数年の歴史が地元に繋がりをもち、ボランティアの協力を含めて、地域に事業所の活動や行事を発信し、地元の人々と交流することに努めている。	○	地域との関わりは法人としての関わりとなっているため、今後は事業所独自の関わりも取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を基に改善すべきところを全職員で確認し、活動日誌の改善や規程・契約書等の見直し、介護計画の家族の同意の徹底等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護サービスや外部評価の内容等の説明をし、客観的な意見やアドバイスをもらっている。また今抱えている問題点を相談することもあり、アドバイスを運営や介護に活かすよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と積極的に連絡を取り、意見交換を行いアドバイスを受ける等、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者は行政主催の福祉事業で、事例発表を行ったこともある。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や運営者はこの制度に関しての重要性や必要性は理解しているが、現在制度の利用者が無いため家族への説明の機会は少ない。職員には制度についての資料を配布しているが、勉強会等への取り組みはこれからである。	○	全職員が制度について理解し、いつでも利用者家族等に説明できるよう、勉強会等で取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全ての利用者の金銭出納帳を作成し、月1回、利用者家族の訪問時に確認してもらい、利用者の様子やホームの予定等を知らせるよう取り組んでいる。また、行事のスナップ写真等を掲示板に貼ったり、玄関に飾ったりして様子を伝えている。プライバシー保護法の問題もあり、現在、広報紙の発行は見合わせている。	○	家族との連携をより深めるため、利用者の暮らしぶり等を紙面で報告してはどうだろうか。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会からの要望や意見を、職員ではなく介護相談員が聞く仕組みがある。要望等については、職員会議で検討し、改善策を見出すよう取り組んでいる。以前は苦情箱を設置していたが現在はない。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるために、定期的に職員の面談を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては年齢・性別等を理由に採用対象から排除しないようにしている。働きながら資格取得のための支援体制が整えられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、外部講習や講演会等に参加し、その内容を職員にフィードバックするようにしている。ただし、全職員での勉強会等の開催は、これからである。	○	全職員が共通した人権意識を持てるよう、早急に勉強会等を実施してほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、全職員に外部研修の案内を回覧し、希望職員が参加できるよう取り組んでいる。また、外部研修の報告会を実施し、報告書及び資料を常に閲覧できるようにしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設からの訪問や見学を多く受け入れる等、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や食事を一緒に摂るなど、時間をかけてコミュニケーションをとるようにしている。法人内からの入所であれば事業所での滞在時間を少しずつ延長する等、徐々に慣れるように工夫している。また自宅への電話(擬似電話もある)をして気持ちを落ち着かせるようにする等、一人ひとりにあった工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護するだけでなく、利用者から野菜や芋の植え方・育て方、料理の味付けを教えてもらう等、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情、行動から本人の思いや希望を汲み取るようにしている。意思表示が困難な利用者については、職員が様々な角度からの意見を総合して判断する等、本人の意向をできるだけ活かせるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人らしく暮らすために、本人や家族の意見を聞く等し、詳細に情報収集している。またこれまでのモニタリングや介護日誌等の記録を参考にカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。介護計画表には家族の意見を記録し、家族が確認した捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画を見直し、また状態変化時には随時見直しを行っている。見直しについては職員はカンファレンスで検討し、本人・家族・介護指導員の意見等を聞き、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院治療が必要な場合は、家族と連絡を取りながら早期退院できるように病院とも連携をとっている。また退院後は治療を受けながらホームで過ごせるように医療機関と相談しながら、出来るだけ事業所での生活が続けられるように柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診について本人・家族と話し合い、その内容に基づいて支援している。必要に応じて協力医院による診察が週1回受診でき、また心療内科は定期的な診察が受診可能である。眼科、歯科の受診には職員間で行い、家族の負担を軽減する支援や、かかりつけ医や希望の病院の受診には、家族対応にて付き添ってもらっているようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の意向を大切にしながら、職員間で出来ること出来ないことを十分に検討し、家族・病院等と話し合いながら対応している。終末期の介護事例がある。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や誇りを大切にし、利用者自身に決定してもらい、意向を聞く、教えるを頂く等を常に意識して接している。職員は日常にお互いの言動を注意している。カンファレンスの議題として、プライバシーの確保や勉強会等行っており、その記録もある。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは室内の掲示板に張られているが、その人らしい日々の生活のために、何をしたいかその都度一人ひとりの希望を聞き、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は法人の栄養士から3食分が提供され、台所で利用者と職員と一緒に作っている。月1回はホーム内で献立を立てて好きなものを作る日を設けている。食後の片付けは出来る人や得意な人が手伝っている。職員も同じものを一緒に食べ、和やかな食卓である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望でいつでも入浴可能である。朝風呂や就寝前に入浴する利用者がいる。入浴を好まない人には、気持ちよく入浴できるよう声かけや対応を工夫し、清潔保持にも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の日々の充実のため、一人ひとりの生活歴を活かした役割や楽しみのためのゲートボール・朝の掃除・華道・食事の準備・料理・お手玉・花札・カラオケ・洗濯物たたみ・野菜作り等を支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	森林浴が楽しめる環境にあり、戸外散歩は日常的に行われている。事業所のバスで全員参加で2ヶ月に1回の外出や、地域の住民宅にて梅の花見学をしたり、希望に応じての買い物等、戸外に出かけられるよう積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、全ての出入口は施錠していない。併設事業所と連携をとり、ナースコール及び玄関のチャイムと連携した職員所有のPHS等での見守りがある。職員は利用者の外出傾向を把握しており、外出する時はさりげなく後に付いて行き、一緒に散歩して帰宅している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と避難訓練を実施し、その評価や反省は詳細に記録している。より安全性等を求めて、避難場所の見直しや非常食品備品の確保の再検討をしている。管理者及び男子職員全員が防火管理者の資格を取得し、火災時等に十分対応できる体制がある。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人の栄養士が献立を含め、栄養管理をしている。利用者の状態等に合わせた調理し、食事摂取量を記録している。水分摂取量は体調が悪い人のみ記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室の床の間には掛け軸や花が生けられる等、家庭的な装飾や調度品により、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はベッド・クローゼット・エアコン・トイレ・洗面所が設置され、清潔できれいに片付けている。利用者の馴染みの持込みについて家族へ説明等行っているが、調度品や装飾等の持込みは多くない。</p>	○	<p>今後も継続して、例えば家族会で利用者の馴染みの物の持込みについて提案する等して、本人が居心地よく過ごせるように努めてほしい。</p>

※ は、重点項目。